

## マイナビ、「非正規雇用に関する求職者・就業者の活動状況調査(5-6月)」を発表 新型コロナウイルスのワクチン接種が進むことにより、 「仕事探しにおける『勤務場所』の選択肢」は増え、仕事探しの意欲も増加傾向に

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：中川信行）は、全国の15～69歳の男女（中学生を除く）（有効回答数：スクリーニング調査19,644名、本調査1,519名）を対象に実施した「非正規雇用に関する求職者・就業者の活動状況調査（5-6月）」の結果を発表しました。

※非正規雇用：アルバイト、派遣社員、契約社員、嘱託

### 《TOPICS》

- ◆ 2021年5-6月にアルバイトを探した人は14.2%（21年3-4月比：-0.3pt）で減少、学生のみ微増【図1、2】
- ◆ 2021年5-6月の新規就業は、全ての雇用形態で「難しい」が増加。特に契約社員は、2021年3-4月比より13.6pt増加した【図3】
- ◆ 新型コロナウイルスのワクチン接種が進むことにより、「仕事探しにおける『勤務場所』の選択肢」は増え、仕事探しの意欲も増加傾向に【図4、5】

### 【調査概要】

2021年5-6月にアルバイトの仕事を探した割合は14.2%で、2021年3-4月より0.3pt微減した。学生が48.4%（21年3-4月比：+1.0pt）、主婦が17.2%（21年3-4月比：-1.1pt）、フリーターが20.2%（21年3-4月比：-3.2pt）、シニアが5.6%（21年3-4月比：-0.5pt）で、学生のアルバイト探しのみ微増した【図1】。

最も探されたアルバイトの職種は「販売・接客・サービス（28.4%）」、次いで「オフィスワーク（26.0%）」だった【図2】。

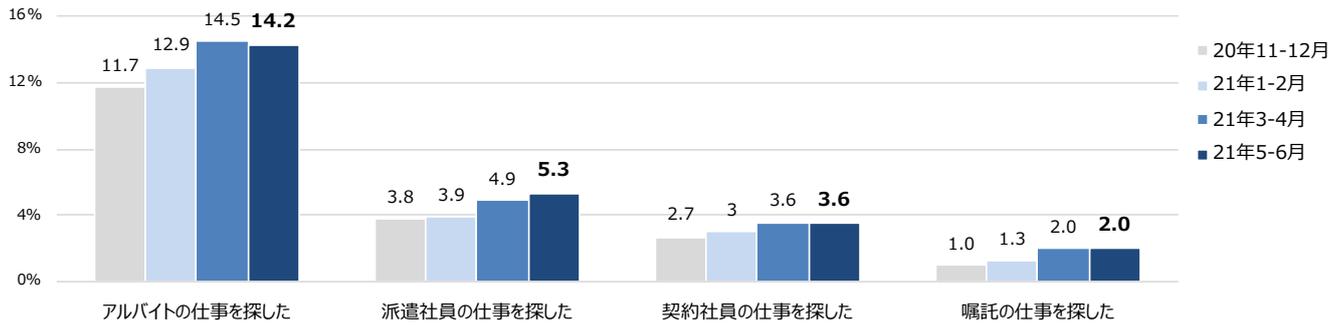
新たに仕事を探した際、「難しい」と感じた人はアルバイトで32.4%（3-4月比：+0.5pt）、派遣社員で34.8%（3-4月比：+1.2pt）、契約社員で53.3%（3-4月比：+13.6pt）、嘱託で41.2%（3-4月比：+4.4pt）とすべての雇用形態で増加した。特に、契約社員が大幅に増加しており、同時期に当社で実施した企業向け調査<sup>\*</sup>でも、「ソフトウェア・通信」以外の業種で採用実施率が減少しており、契約社員の就業が難しくなっていると考えられる【図3】。

※非正規雇用に関する企業の採用状況調査（5-6月）「業種別 21年5-6月における企業の採用活動実施率」より

新型コロナウイルスのワクチン接種が進むことによる変化を聞いたところ、全体では「仕事探しにおける『勤務場所』の選択肢」が増えるが32.2%（「増える」+「どちらかといえば増える」）で最も高く、次いで「仕事探しの意欲」が増えるという回答が30.6%になった。一方、「飲食や宿泊やイベントなど、コロナ禍で影響を受けた業種での就労意欲」は減るという回答が最も多く15.4%（「減る」+「どちらかといえば減る」）となった【図4】。

「仕事探しの意欲」の変化の理由を自由回答でみると、増えるとした理由では「今より色々な職種や、業種の求人が増えそうだから」、減るとした理由では「応募殺到が起きて、採用されにくくなる」という回答もあり、求人数の増加への期待感を持ちつつも、同時に競争が激しくなる懸念も持っていることがわかる【図5】。

【図 1-1】 5-6 月に非正規雇用の仕事を探した人の割合（回答数：19,644）



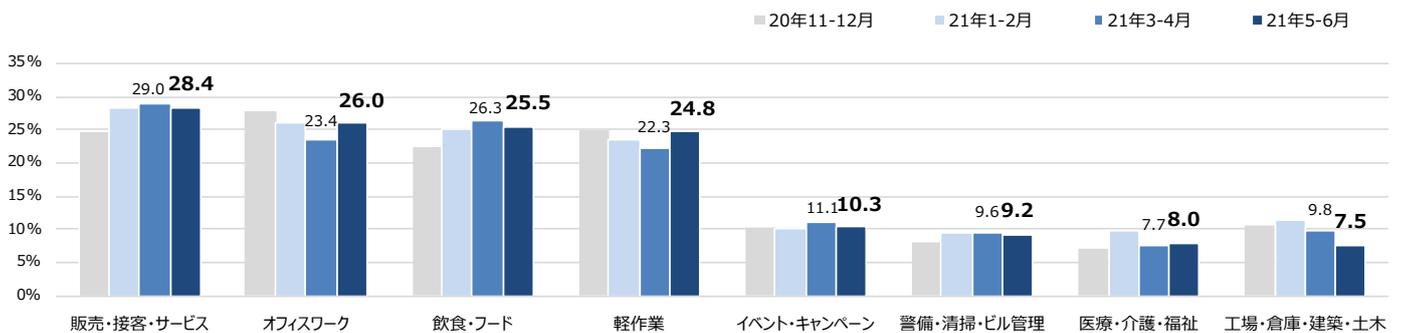
【図 1-2】 アルバイトの仕事を探した人の割合

	全体	学生	主婦	フリーター	シニア
回答数：	19,644	1,677	4,331	1,610	4,089
21年5-6月	14.2%	48.4%	17.2%	20.2%	5.6%
参考 過去数値					
21年3-4月	14.5%	47.4%	18.3%	23.4%	6.1%
21年1-2月	12.9%	39.8%	23.1%	21.6%	6.3%
20年11-12月	11.7%	36.2%	19.2%	20.6%	5.1%

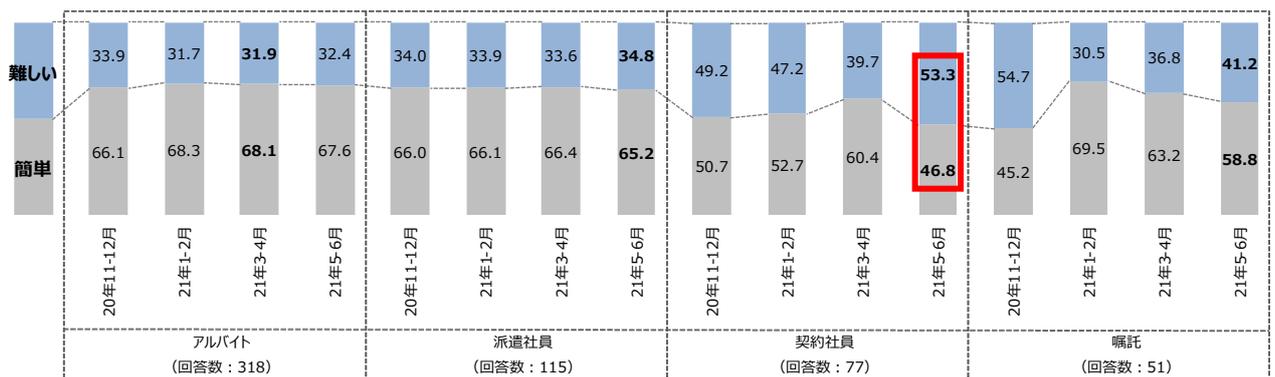


※回答数は最新の調査のものを記載

【図 2】 アルバイトの仕事で探した上位 8 職種（回答数：1,204）



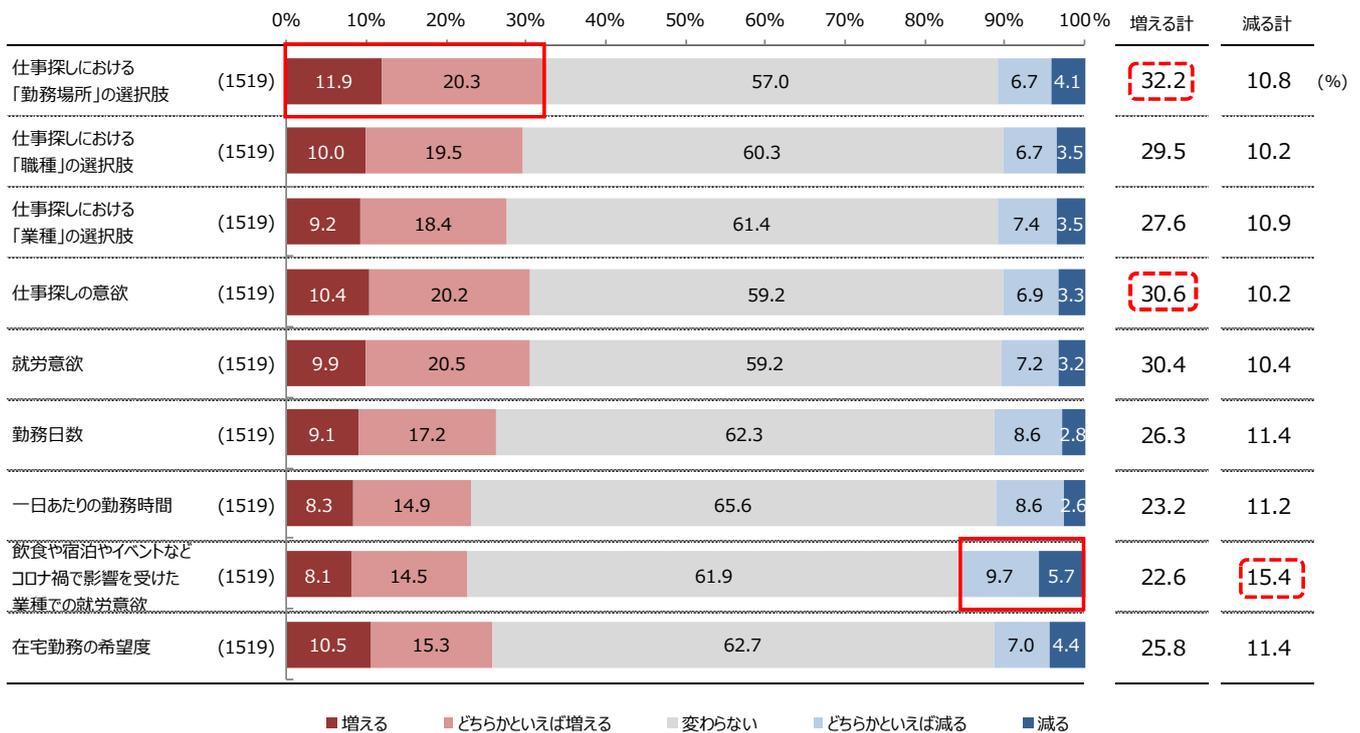
【図 3】 非正規雇用（アルバイト、派遣社員、契約社員）の新規就業について



※回答数は最新の調査のものを記載

[難しい] は難しい・どちらかといえば難しいの合計値、[簡単] は簡単・どちらかといえば簡単の合計値で算出

【図 4】新型コロナウイルスのワクチン接種が進むことによる変化（単一回答）



【図 5】ワクチン接種が進むことによる「仕事探しの意欲」の変化—その理由（自由回答）

仕事探しの意欲が「増える・どちらかといえば増える」の理由		仕事探しの意欲が「減る・どちらかといえば減る」の理由	
求人数も増えると思うから、本腰を入れられる	男性40代	ワクチンで集団免疫ができるのには、相当の時間がかかるため	男性60代
今より色々な職種や、業種の求人が増えそうだから	女性50代	求職者が増えるので、就職が難しくなるから。	女性60代
県外自粛が解除になって、地方への仕事が行けそうだから	男性20代	みんなが外出するようになり、競争が激しくなる	男性50代
避けていた接客の仕事を選択肢に入れられるから	女性40代	仕事の選択肢など、条件が厳しくなった	女性50代
他県での求人も、選択肢に増えるから	女性30代	在宅ワーク募集が減り、通勤業務が増えそうだから	女性30代
本業であまり稼げないので副業を探しており、 コロナ感染リスクが下がれば接客などに接する仕事を候補にしたい	女性40代	仕事の採用倍率が上がって、採用されやすくなるから	男性10代
新しい業種が増えることが予想されます。 また、飲食店のアルバイトが増えると思います。	男性40代	求人の競争率が上がってそうで、なかなか採用されずじけそう	女性40代
景気も良くなってきて、求人も増えてくと思われるから	男性30代	今の仕事が増えれば、新しい仕事を探す必要がなくなるから	女性40代
積極的に面接へ行けるから	男性40代	応募殺到が起きて、採用されにくくなる	男性30代
働くことが怖く感じなくなるため。	男性40代	買い手市場に拍車がかかる気がするから	女性50代

※自由回答は一部のみ抜粋表記

【調査概要】「非正規雇用に関する求職者・就業者の活動状況調査（5-6月）」

- 調査期間／2021年7月1日（木）～7月6日（火）
- 調査方法／インターネット調査
- 調査対象／スクリーニング調査：全国の15～69歳の男女（中学生を除く）
- 本調査：全国の15～69歳の男女（中学生を除く）のうち、5-6月に非正規雇用の仕事探しをした、もしくは新たに非正規雇用の仕事をはじめた人
- 有効回答数／スクリーニング調査：19,644名 本調査：1,519名

※調査結果の詳細は会社HPのニュースリリース (<https://www.mynavi.jp/news/>) からご確認ください